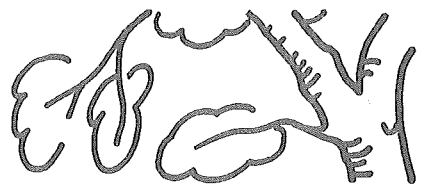


酪農家の顔

浦山秀夫(四三)さん、操(四二)さんは婦唱夫隨の酪農家である。苦田郡鏡野町の水田のど真中で、成牛一頭、育成牛九頭の大所帯をかかえて、基礎飼料中心の理想的経営を行なっている。操さんは酪農歴一〇年のベテランであるが、秀夫さんは大工が本業で、去年の四月から本格的に酪農と取り組んだ。「カアちゃんに朝から晩まで叱られるがらやっております。」と笑っている。由美子(一九)さん、恵美子(高三)

さんの二人の娘さんがあるが、両親以上にウシが好きで、緑の下の力もち以上である。全頭に名前をつけてかわいがり、子牛などまぶれつけてくる。右の写真の牛は北海道から導入された浦山家の基礎牛で、現在一才、一〇産を妊んでいる。まだまだ使える牛である。家族六人、いや二〇頭のウシを入れて二六人の酪農一家である。明るい日射がいっぱいだ。



肉用子牛価格安定

いよいよ発足

岡山県農林部畜産課

最近における国民所得の急速な増加にともない、食生活のうち畜産食品が占める部分はしだいに増大していますが、なかでも食肉消費の伸びは特に著しく、五カ年間に約二倍に増加しています。

これに対して、食肉供給は豚肉、鶏肉の生産増加がみられているものの、急激な需要の増加についてゆけず、肉用牛資源の食いつぶしとなってあらわれました。

すなわち、かつて全国に二五〇万頭いた肉用牛が昭和四一年には一五五万頭と大中に減少してしまつたのです。

生産経営安定のねがい

このような事態に対応して、農林省においては昭和四一年度から肉用牛繁殖育成センターの設置、家畜導入事業の拡充実施など、肉用牛の生産増強につとめてきました。これら肉用牛の生産振興施策の円滑な実施を期するには、子牛価格

の安定事業を実施し、子牛生産経営の健全な発展をうながすことが緊要であることから、また、全国和牛協会(会長、小枝一雄)を中心とする生産者団体からの強い要請もあり、このほど肉用牛主要生産県(兵庫・鳥取・島根・岡山・広島・熊本・大分・宮崎・鹿児島)を対象に、肉用子牛価格安定基金協会を設立し、子牛の価格安定をとおして、肉用子牛生産の安定的拡大をはかることとなつたところであります。

いよいよこしがスタート

本県においても、昭和四一年度以降、肉用牛振興を重要農林行政の一つとして取り上げ、肉用牛振興地域の指定、岡山県畜産公社による家畜導入事業の拡充実施など関連施策の重点実施につとめてま

いりました。その結果、昨年来の子牛価格の高騰などもあって、昭和四二年中における子牛生産頭数は二万四千三百頭(対前年比一四%増)と急速に回復し、鹿児島、宮崎について全国第三位の実績を示すにいたりました。しかし、最近における子牛価格の高騰は、価格の先行き不安を招来することとなり、これが、かえって飼養規模の拡大と経営の近代化を阻害することとなっています。このようなことから、本県としても、国の方針にしたがって、昭和四三年度から肉用子牛価格安定事業を実施して、農家の皆様方に安心して子牛生産と取り組んでいただくために、関係機関と協議しているところであります。そのあらましをのべると次のとおりであります。

五月号目次

肉用子牛価格安定いよいよ発足	1
豚の子防衛生と異常豚の発見	4
生産管理記録簿と自給飼料計画	10
(第二回)	10
肉牛の肥育(第四回)	14
春の草をたくさん貯蔵しよう	16
☆鶏試だより☆	16
昭和四三年度の研究課題	6
岡山県畜産課職員一覧	3
養鶏農協のページ	9
農林統計速報より	19
酪農見て歩き(第三回)	13

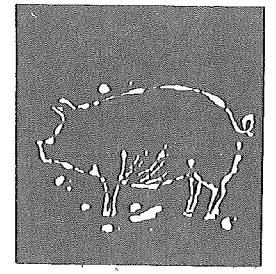
子牛価格補償契約の締結

協会は、協会構成員の会員農協を通じて、子牛生産農家と、四カ年間の取引に関する基本契約と、毎年結ぶ年次契約を締結し、農家は子牛を販売するつど、一

社団法人岡山県肉用子牛

価格安定基金協会の設立

子牛価格安定事業を行なう機関として、金協会を設立する。



豚の子防衛生と

異常豚の発見

日生研医博 川窪 淳

三月十三日、岡山市弓之町分庁舎で開かれた岡山県養豚（振興協会主催の養豚講演会より、その要旨を抜粋）

大きく変わった

養豚情勢

最近では養豚も、どんどん多頭化、集団化、專業化が進んできている。それだけに、いろんな様相を呈してきており、病気にについても一昔前より極めて複雑になってきている。

これを統計してみると（農林省畜産局、家畜衛生統計）、昭和三十七年には飼養戸数一二〇万戸、頭数四〇〇万頭であったものが、昭和四十二年には六五万戸、六〇〇万頭となっている。戸数は五四％に減少し、頭数一五〇％となり、多頭化が進んでいることがはっきりとわかる。そして養豚経営の重点は、省力化ということと肉質の向上に向けられており、品種も以前は（昭和三十七年）中ヨーク（七九・三％）、パーク（八・一％）が大部分であったものが、現在は（昭和四

十二年）ランド、大ヨークが主体を占め他に新しいものとしてハンブ、ドルバックなども飼養されるようになり、反対に中ヨーク（一六・四％）、パーク（三・三％）は少なくなった。肉豚は雑種が多くなり六五・二％を占めている。このように中型から大型が好まれるようになり、省力化のために齊一性の高い品種が要求されてきている。

また、海外との交流もさかんにになり、新しい病気も導入された。昔は、豚の病気がといえば、豚コレラ、豚丹毒、豚バラチフスぐらいのものであったが、現在では治療不可能な病気さえある。

多頭化、集団化してくれば、家畜衛生がまず問題となる。特に鶏、豚など中小家畜では、これをおろそかにしては経営は成立しないものである。ところが畜主の衛生に対する考え方は、いっこうに向う上しているとは見えない。ある程度の経験ができた人は、しろうと判断で治療している場合が多いし、病気に對するパン

健康豚と

異常豚のちがひ

家畜の病気を治療する場合、経営経済がからんでくるからむづかしくなる。人間や愛がん動物の病気を治療するようにはいかないから、まず子防衛生の徹底を図るべきである。

- ① 病気を早期に発見する
- ② 診断する
- ③ 管理（隔離、殺）すること
- ④ 一般多生の方針をつらぬくこと

環境が大きく

左右する

病気の発生を防ぐには病原体をいっさい近づけないのがよいのであるが、発生要因としては次の四点が考えられる。

- ① 環境衛生
- ② 飼料（水を含む）
- ③ 管理
- ④ 個体の衛生

環境衛生については、特に畜舎が問題となる。畜産、特に中小家畜の場合には、野外の作物とちがい、畜舎によってある程度天然現象から護られている。しかし、これにも大きな落とし穴がある。つまり、

肉用牛大講演会

開催予定

京都大学教授 上阪章次先生、兵庫農科大学教授 福島豊一先生を招き、県畜産会、県経済連主催で、右の予定で肉用牛大講演会を開催します。多数の聴講をお願いいたします。

消毒を

よく考えて行なう

飼料は現在、ほとんど配合飼料が利用されているが、良心的な飼料会社のものである。水も飼料のうちに入れてよいと思うが、豚は成長率の高い家畜であるので、きれいな水を十分与えることが必要である。

飼養管理に当たっては、人の出入に十分注意を払うことが重要で、平素から畜舎の出入を厳禁すると共に、流行期には人はもとより犬猫といえども接近させないよう配慮する。豚自体はもとともと病毒は

一頭当りの畜舎の広さと病気の関係である。新たな畜産試験場が行なった調査例（三五戸対称）を示せば、流行性肺炎の発生率は床面積が一頭当り一㎡以下の場合五〇％、一㎡以上の場合八・七％、また畜舎空間が一頭当り三㎡以下の場合五〇％、三㎡以上の場合一二％となっている。もう一例（一二戸対称）では一㎡以下で四四・四％、一㎡以上で四五％の発生率をみている。このように大きな差がある。

要するにすべての家畜にいえることであるが、集団化に伴う病気としては呼吸器病、消化器病に細心の注意を払う必要がある。飼料は現在、ほとんど配合飼料が利用されているが、良心的な飼料会社のものである。水も飼料のうちに入れてよいと思うが、豚は成長率の高い家畜であるので、きれいな水を十分与えることが必要である。

もっていないのであって、大部分の病気は人間やその他の動物（鳥類を含む）が持ち込んでいる。

病気の流行の原因は、ほとんどが畜主の無目覚によっている。いったん伝染病が出ると、自分は自業自得でよいが、周囲に対して大きな損害を与えることになる。現在のように交流が激しいと、常に病気にさらされているようなものである。

衛生管理といえば、まず日常の清掃と消毒である。消毒薬にしても、その性格、使用方法、使用量をよく知ることである。また、不けつは病原体のすみかとなるばかりでなく薬品の効力を殺してしまう。

消毒槽も長靴が十分つかる深さ、大きさのものがほしい。そして雨水が流れこんだり、日光が射し込まない所に設ける。三％クレゾール液の場合、日時がたてばにおいはしても効力はなくなっている。なので、だいたい一日二〇回の出入がある場合は夏で二日、冬で三日間をめやすとしたい。また温度が低いと消毒力がおちるので、温湯で溶くとよい。

また最近では、大規模なところではスチームクリナーが使用されているが、これは掃除するものであって消毒はできないから注意したい。スチームの温度を計ってみると、噴射口より五cmでは八八℃、五〇cmでは五〇℃であるが、一m先になると三六℃になり、病毒の繁殖に最適な温度になってしまうのである。

SQUIBB

増体と肉質の改善にすばらしく効く



天然ホルモン肥育剤(耳根皮下移植剤)

シノベックス

S (去勢牛用) — 黄色ベレット
H (雌牛用) — 白色ベレット

輸入元 日本スクイブ株式会社 発売元 昭和薬品化工株式会社
東京都港区赤坂3丁目2番6号 (赤坂中央ビル) 東京都中央区宝町1-5 (味の素第一新館)

養鶏試験場だより

衛生研究に重点

昭和43年度主要試験研究課題

本年一月下旬に、猛威をふるっているニューカッスル病の侵襲を受け、防疫の原則に基づいて全飼養鶏を殺処分した結果、業務を一時中断せざるをえなくなり、皆さんにたいへんご迷惑をおかけしましたことを、まずもって深くお詫びします。場としましては、一刻も早く業務を復元するため、徹底した場内消毒浄化を実施し、安全確認のための試験入雛も無事終了しましたので、四月九日再建第一陣として九〇〇羽の初生雛が入り、業務を再開することになりました。

1. NDワクチネーション方式と効果判定に関する試験

本年度の試験研究課題は、養鶏界で早急に解明を必要とする課題を重点的に選択し、中でも衛生関係の課題にウェイトをおき実施いたします。主要な試験研究課題を紹介しますと、次のとおりであります。

全国的にまん延常在化し、しかも強毒化したNDウイルスに対処するため、免疫度の高い効率的なワクチネーション方式を早急に設定する必要がある。この方法について比較検討する。

本試験は岡山大学農学部家畜衛生学教室との共同研究により、種々のワクチネーション方式を設定し、H1テストおよび野毒攻撃（岡山大学で行なう）を行なって効果判定を実施し、その結果に基づき効果的なプログラムを設定指導する。

〔衛生関係〕

試験の規模
W L ♀二五〇羽（五〇羽×五区）昭和
四三・四・九餌付

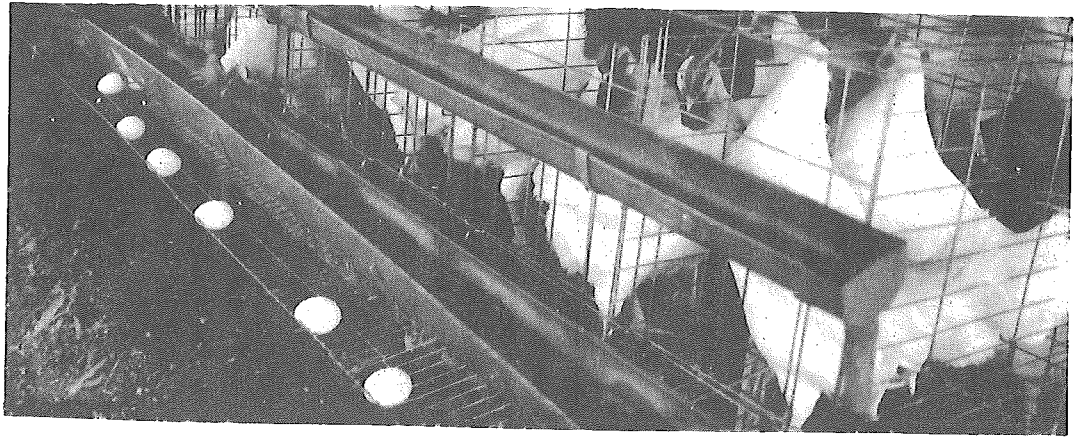
2. 消毒剤の飲用による鶏病予防の効果に関する試験

目的
最近の鶏病は飼育形態の改変、多羽数飼育に伴ない多発複雑化の傾向があり、病原微生物（ウイルス、細菌）に起因するものは経口感染を主体として特に育成期に発病が多い。本試験は消毒剤を餌付時より連続飲用し、主要疾病（白血病、CRD、伝染性コリーザ、ひな白痢など）の子防効果を対比して効果的な予防法を究明する。

試験の規模
W L ♀二〇〇羽（五〇羽×四区）昭和
四三・四・九餌付

3. ロイコトゾーン病の予防に関する試験

目的
本病は卓越した予防剤の応用で近年まで完全に発病が防止されていたが、最近予防剤が添加されているにもかかわらず発病し被害が見られるので、ニワトリスカカの発生消長調査とともに予防剤の添



加量、応用法について追試することにより完全な予防対策を確立する。
なお、本試験は岡山大学農学部家畜衛生学教室と協定のうえ実施する。

試験の規模

W L ♀二五〇羽（五〇羽×五区）昭和
四三・六・五餌付

4. 鶏の呼吸器性マイコプラズマ病（Mg病）の防除に関する試験

NDワクチン接種によるCRDの誘発防止について

目的
鶏病のうち被害の大きいのが呼吸器病群であるが、その中でも重要なものが本病である。

そこで、当場では従来種鶏を対象にMg病の浄化について試験し相当の成果を得たが、本試験ではND生ワクチン（B₁株）の接種によるCRDの誘発防止と本病の防除を目的として各種抗生物質をNDワクチネーションに合わせて初生時から計画的に投与して、その効果を対比し、実用に適したプログラムを設定する。

試験の規模

W L ♀二五〇羽（五〇羽×五区）昭和
四三・六・五餌付

5. 内部寄生虫駆除に関する試験

目的
平飼い飼育における内部寄生虫の被害は意外に大きく、とくに寄生虫による抗病性低下から伝染性疾病の誘発の危険性も大きい。

この試験では、現在常用されている内部寄生虫駆除剤と、近時開発された新しい駆除剤との駆除効果を比較し、経済的でも効果の大きい駆除方法について検討する。

試験の規模

W L ♀二〇〇羽（四〇羽×五区）昭和
四三・四・一九餌付

〔飼養関係〕

1. 肉用雌種鶏の育成期ならびに成鶏期の制限給餌に関する試験（第二年度）

目的
肉用種鶏を従来の育成方式で飼養すると、飼料摂取量が多く育成費が高くなる

採卵鶏の育成期に適切な制限給餌をおこなうことにより、飼料費を削減し性成熟を適度におさえ、初産当時の卵重量を増加し、産み疲れを防ぐなどの効果が期待できる。したがって、この試験研究では採卵鶏について合理的な制限給餌の方式を究明する。

2. 採卵鶏に対する制限給餌試験（第二年度）

目的

採卵鶏の育成期に適切な制限給餌をおこなうことにより、飼料費を削減し性成熟を適度におさえ、初産当時の卵重量を増加し、産み疲れを防ぐなどの効果が期待できる。したがって、この試験研究では採卵鶏について合理的な制限給餌の方式を究明する。

試験の規模

W L ♀二〇〇羽（五〇羽×四区）昭和
四三・四・九餌付

武田の畜牛用新薬

動物用 乳牛用ビタミン・ミネラル総合剤

ミルクエード

武田薬品工業株式会社

動物用 活性持続型ビタミン剤

グロリン

動物用 総合漢方消化整腸剤

強カビファン

食品事業部 畜産部

L-04

3. クロレラの培養法について (第二年度)

目的

飼料資源開発の一環として、クロレラの利用が考えられるので、第一年度試験では培養の基本的事項について試験調査し、ある程度の成果を得た。しかし季節別に安定した培養法の研究が必要であるので、本年度は周年の培養をおこない経済性のある培養法を確立するため試験調査する。

試験の規模

六連式培養槽(一槽の容量二五〇〇ℓ)自動攪拌装置付

4. クロレラ給与が鶏に及ぼす影響について(第二年度)

目的

クロレラの栄養分は大豆粕に匹敵し、とくにアミノ酸の構成がすぐれ、微量栄養素も多く、飼料の利用効率および鶏の強健性を高め、卵質の向上する効果が期待できるので、適切な給与方法について検討する。

試験の規模
W L♀二〇〇羽(五〇羽×四区) 昭和四三・五・四餌付

5. 採卵鶏に対する段階的栄養給与法に関する試験

目的

飼料効率を高め、生産性を向上するためには、育成期から産卵期を通じて、鶏の生理に適合した段階的栄養給与が必要である。このため、合理的な栄養給与法について究明する。

試験の規模

W L♀二〇〇羽(五〇羽×四区) 昭和四三・四・九餌付

〔管理関係〕

1. 産卵鶏のグループ別管理について(第五年度)

目的

現在慣用されている採卵鶏の単飼ケージ方式を複飼に切り替え、一羽あたりケージ間口を小さくし、鶏の収容密度を高めることは、施設費および管理労力の削減をはかることができ、鶏舎の単位面積あたりの生産性の向上が期待でき、遂次普及をみつもめる。

しかし、ケージ規格についてなお検討の余地があるので、これらについて適切な技術体系を確立し、一般養鶏家に即応できるように究明する。

試験の規模

W L♀二四〇羽(昭和四三・五・四餌付)

2. 鶏の点灯管理に関する試験 光源の差異が鶏に及ぼす影響について

目的

鶏に点灯をおこなう場合、光源の波長が六五〇mμを中心とするものが望まれるので、従来、慣用されている光源と、新しく開発された光源について比較検討する。

試験の規模

W L♀三〇〇羽(六〇羽×五区) 昭和四三・四・一九餌付
(研究員 守屋 進)

成鶏、種鶏へも 生ワク使用可能

鶏のニューカッスル病は依然として猛威をふるっているが、自衛防疫の推進や予防注射の徹底、衛生管理の改善等の防疫の強化によって、これとに入ってからニューカッスル病の発生状況は三月までの三カ月間に約六〇〇万羽と推定され、昨年に比べると減ってはきているが、発生地をみると三都道府県に増加しており、また各地域とも断続的に発生するなど、ウイルスの定着化や広範なまんえんが心配されている。

また、昨年に国内に販売された不活化ワクチン、生ワクチンの量は、約五億二、三〇〇万羽分で、飼養羽数の大半が二、三回の給与をうけたことになるが、最近の発生例をみると未注射鶏が多く、予防注射が徹底されているとはかぎらず、現在では汚染地に未注射鶏がいるとかならず野外毒におかされ、まん延を助長することになるので、汚染度の高い地域では、成鶏、種鶏でも、周囲の発生状況や抗体調査の成績などを検討したうえで、必要に応じては生ワクチンを使ってよいことになった。



養鶏農協 のページ

マイホーム主義に徹す あに若者のみならんや

花が咲いて散って、心よい季節です。この季節はまた、会議の季節でもあります。毎年、四月下旬から五月いっぱい、六月初めに催されます。養鶏関係の団体も、その例外ではありません。会計年度が、三月末終了・決算という団体が多く、決算報告や次年度事業計画設定のための役員会や総会が、この時期に集中して催されるからだと思います。

百科事典をひいてみました。会計年度とは、会計を実行するうえにおける時間的限界または時間的計算単位であり、財政計算および損益計算などを行うために、人為的にもうけた一定の計算期間であって、会計の記録・計算・表示などはすべて会計年度を基準として行

われ、会計年度をはなれて会計は存在しない。とあります。会計年度とは、しかし重要なものですが、四月一日～三月三十一日である必要は何でしょうか。それぞれの団体が、種々の条件から最もつごうがよいと思う期間を定款で定めればよいわけで、事実商會社等の会計年度は、区々にわたっているようです。しかし、団体の場合は、官公庁の会計年度に合わせるのがあるかと好つごうである場合が多いので、五月ごろに総会が集中し、それを機会に、諸会合が催されるというわけでしょう。

この組合の会計年度は、ご承知のように七月一日～六月三十日となっておりますから、事業報告や計画設定のための総会

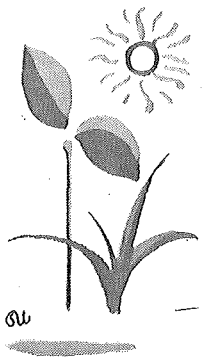
や役員会は、毎年八月に行なわれていきます。これは、春の孵化シーズンは大体六月に終了しますので、事業運営の転期を画するにつごうのよい時期に、会計も締め切るといわけです。孵化事業も、季節による繁閑の差が、前ほど大きくありませんが、それでもやはり、種鶏の産卵最盛期やその他自然的な条件からいって最も適当であると思われまます。また、組合員の多くは、農業を兼営する場合がありますので、農作業の閑散期である八月に、総会その他の会議をもてば、出席率がよいという配慮もあります。例年、総会や役員会の出席者が九〇%を越すのも、この会合時期を選んだからだと自負しているしだと思います。

その代り、真夏に集合をお願いするには、それ相当の苦勞もあります。先ず、会場が、冷房のきく場所であればいいけません。今ごろ、扇風機ぐらいでごまかすような会場では、しかられてしまいません。それから、送り迎えをしないでもよい場所であれば、交通費がかさみませんし、逆にマイカー族も少なくありませんから、駐車場に近いことも必要です。しかし、それよりもこれよりも、最も苦勞するのは食事です。腐りやすいものは、絶対に避けなければなりません。何せ、会場で食べるもの以外に、持ってお帰りになるものも用意しなければならぬからです。しかも、会場で食べて頂くため

に用意したもので、お持ち帰りになる方が少なくありません。どうも、このごろの若い人々はマイホーム主義に徹している、という批判は、必ずしも当たっていないようです。組合員の多くは、年輩者といつてよいおとしがらです。そのサカナの附属物になるのでしょうか、毎年総会では、飲みものが何本かなくなりまます。どうも、その紛失本数は、マイカー族のふえるのに正比例しているようです。飲酒運転厳禁の折から、まことに時宜を得た行ないかと、感心するしだと思います。

昨年総会のあとでした。「うちで飲み直そう」とおっしゃるAさんのお伴をおのおのサカナ持参ですから、たちまちうたげの用意は整いました。そして、驚いたことに、酒も二合瓶が、おのおのポケットから二、三本ずつ現われたのです。これでは、会場を貸して頂くほかに、大してご迷惑をかけることもあるまいと、おしいにちようだしました。マイカー族でないのは、こういう際の強みですから。

後日聞いたところによると、同種の二次会が何組かあったそうです。かくて、交通違反皆無、それぞれのホームは円満至極、まことにめでたい風景でした。数年前までは、二次会といえれば、どこかのバーか料理屋でしたのに。あゝ、マイホーム主義はよきかな。



技術と経営 合理化のための生産管理法と飼料給与計画

(その二)

岡山県常勤畜産コンサルタント

上原茂喜

二、生産管理記録記入について (承前)

(3) 搾乳表

酪農経営では多頭飼育になっても、一頭一頭の乳量の多少が経営を左右する原因になる。そのために個体別の産乳量が是非必要になり記録することが大切である。経営分析としては成牛一頭当たり、または経産牛一頭当たりの年間産乳量が問題になる。

◎ 搾乳表によつて反省検討しなければならぬ事項

イ 酪農経営で最も重要な地位にある乳牛の個体別の能力を知ることができる。能力のよい牛(七、五〇kg以上)ほど牛乳一kg当たりの飼料給与量が少なく、飼料効率はよい。また、これからの経営は乳牛個体(体型、能力)を揃えて、全体の能力を上げ平均化することが重要である。これが乳牛改良の極め手となる。

ハ 産乳量は酪農経営の良否の極め手となる。

一頭当たりの乳量が四、〇〇〇kg以下であれば、飼料給与や労働能率をいくらか改善しても採算はとれなくなる。経営を検討する場合は、成牛一頭当たりの産乳量は次式によつて算出する。

$$(1) \text{成牛1頭当たり産乳量} = \frac{\text{年間搾乳量}}{\text{年間月別成牛延頭数} \times \sqrt{12}} = \frac{140400}{\{(30 \times 2) + (34 \times 5) + (33 \times 3) + (31 \times 2)\} \times \sqrt{12}} = \frac{140400}{33.75} = 4160 \text{ Kg}$$

= 30頭程度の多頭飼育の場合の成牛1頭当たり乳量は4500kg以上

$$(2) \text{搾乳牛1頭当たり産乳量} = \frac{\text{年間搾乳量}}{\text{年間月別搾乳牛延頭数} \times \sqrt{12}} = \frac{140400}{\{(36 \times 2) + (31 \times 3) + (30 \times 2) + (29 \times 2) + 28 + 27 + 25\} \times \sqrt{12}} = \frac{140400}{363 \times \sqrt{12}} = \frac{140400}{3025} = 4641 \text{ Kg} = 5000 \text{ Kg 以上}$$

$$(3) \text{経産牛1頭当たり産乳量} = \frac{\text{年間搾乳量}}{\text{年間月別経産牛延頭数} \times \sqrt{12}}$$

搾乳表様式

区分 月日	個体別産乳量 (kg)										仕向 (kg)			備考
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	工場	家庭用	
8月1日														
2														
3														
...														
30														
31														
月計														

備考欄には分娩牛名、発情月日、種付月日、仔牛生体重、乳脂率、2等乳量、病気などについて記入する。

(4) 投下労働時間表

家族労働報酬の算出と労働生産性の把握には二つの目的をもっている。労働時間は家族労働と雇用労働は区別することが大切である。家族経営では雇用労働は経費支払いの対象になるのに対して、家族労働は所得をあげる基であり、この点が相違するのである。

家族労働報酬を計算するには、総所得を家族の総投下時間で割れば出るし、一日当たり労働報酬は、労働時間を一日八時間に換算して、家族労働一日当たりに

ついて計算するのが適当であると考えられる。

労働生産性をみるには、雇用労働を含めた投下総労働時間が必要になり、労働生産性は乳牛一頭当たりの飼養労働時間と生草一、〇〇〇kg当たりの飼料作労働時間が主なものである。

◎ 労働時間表によつて反省検討しなければならない事項

- (1) 1人1日当たり産乳量

$$= \frac{\text{総産乳量}}{\text{総労働時間}} \text{ (kg)}$$
- (2) 成牛1頭当たり飼養管理労働時間

$$= \frac{\text{総飼養管理労働時間}}{\text{年間月別成牛(換算)延頭数} \times \sqrt{12}}$$
- (3) 1人1日当たり飼料作生産量

$$= \frac{\text{飼料作物総収穫量}}{\text{飼料作労働時間}} \text{ (kg)}$$

酪農経営の基本は乳牛を飼育する眼を養うために「乳牛の見方」をどうぞ
一冊 二〇〇円

三、自給飼料生産計画樹立について

酪農経営の安定上、最も重要な部門は基礎飼料の生産である。量、質ともにある程度まで確保することが、牛乳生産量を増加する意味からも、乳牛個体の体力を維持する点からいっても重要なことである。

従来、飼料生産については一般に計画性がなかったのであるが、多頭化が進むに従って、自給飼料の生産をより能率的にすること、生産された飼料をより効率的に利用することが重視せられるようになってきたのである。この意味から、基礎飼料は年間平均して給与するよう考慮することが必要で、生産、貯蔵もこれに応じた計画が必要になってくるわけである。つまり、青草給与時期も冬飼いつけでも、その基礎飼料には大差がなく、春夏秋冬いずれも基礎飼料の量、質が一定量給与されることが望ましいのである。

たとえ一日の基礎飼料必要量が十分でない場合でも、年間平均して与えることが体力的にも泌乳量からも有利である。実際に、サイレージの年間給与を行わない成績をあげている酪農家もある。これは、良質サイレージを作ることが条件であり、貯蔵型の給与法で、上記の理由と労働的に省力化できることが特徴である。自給飼料の生産は、まず第一に乳牛に対する給与計画をたてることである。こ

- (1) 乳牛基礎飼料給与計画
 次のページの図参照のこと。
- (2) 基礎飼料の給与計画
 給与計画と同様、作付計画は酪農経営において最も重要な計画である。ある程度の飼料生産目標がなくては多頭化しても意味がなくなる。

- (3) 省力化のため青刈給与方法をできるだけ貯蔵型給与法にすること。
 - (4) 良質基礎飼料を生産するため、施肥に留意すること。
- 水分の多い軟弱な、過繁して倒伏しやすい状態の作物は、一般にたん白質はあるが、炭水化物、灰分が少なく、このような作物には硝酸態窒素の含有量が多く、メトヘモグロビン血症を起しやすい飼料である。これを防ぐため、

労働時間表様式

8月	飼育管理			飼料作物			合計
	家族	雇用	計	家族	雇用	計	
1日	8.5時		8.5時	1.0	8.0	9.0	17.5
2日	9.0		9.0	1.0	18.0	19.0	28.0
...							
30日	9.0		9.0	3.0		3.0	12.0
31日	11.5		11.5	2.0		2.0	13.5
計	290.5		290.5	4.0	26.0	106.0	396.5

備考 飼料作労働時間は飼養管理時間と別として取後運搬労働を含める。

以上 参考文献 島津 正著 多頭酪農の安定経営

肉牛の肥育

岡山県普及教育課主幹 林 正夫 (第三回)

三、肥育の設計 (承前)

二、肥育をいつ打ちきるか

肥育をいつ打ちきるか、別の言い方をすれば、いろいろな形態の肥育の中で、細かくは頭々の牛について、仕上がり体重をいくらにしたのが、最ももうけの多い肥育となるか、ということ、実際問題として、肥育農家が真剣に検討しなければならぬことを強調したい。多頭肥育経営では、このように一頭ずつについてきようが出荷の適期だと、細かく取りあつかえない事情もあらずけいではないが、少なくとも、「エサを食いこむうちにはふとっているのだから」と言って肥育を続けることは不合理であろう。今日のように系統団体による肥育指導と共同出荷の線が強力になって来たとき、団体の営農指導上からも、適期に肥育を

打ちきって肉牛を出荷するようにすることの必要性を適切に指導することが望まれない。

ついでに、普及員が集ったときにも、この問題が課題としてとり上げられた。その時の課題のとり上げかたは、「去勢牛の若令肥育の仕上り体重が四五〇キログラムという目標となっていないが、指導指標として適当でないのではないか。今では、少くとも五〇〇キログラムぐらゐが適当なのではないか。」と、こんなことだと思っている。

(1)

去勢牛の若令肥育の仕上りの体重を四五〇キログラム以上とするのはなぜかということについて、兵庫農大の福島教授が、その著書「肉牛多頭肥育」の中で述べられているのを引用すれば、あらま

第16表 牛体化学組成の体重による変化

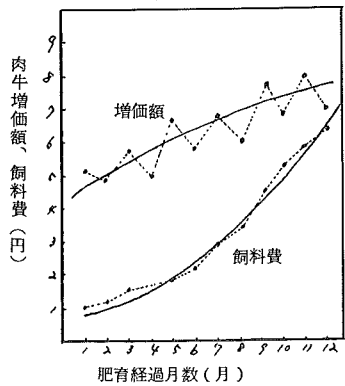
生 体 重	水分	蛋白	脂肪	灰分
45kg(生産直後)	71.8%	19.9%	4.0%	4.3%
315kg(肥育素牛)	60.3	18.6	16.6	4.5
450kg(軽度の肥育)	52.0	17.1	26.9	4.0
540kg(普通の肥育)	48.0	16.0	32.3	3.7
675kg(過肥)	43.5	15.7	37.6	3.2

注：消化管内容物を含まない。
資料：モリソン著「飼料と飼養」第22版、17ページ、1956
より(前記兵庫農大福島引用)

しつぎのような理由による。
ア、去勢牛の若令肥育で、生体重が四五〇キログラム以上になれば、枝肉重量は二七〇キログラム(歩留り六〇%として)ぐらゐで、商品として取りあつかい手がごるな枝肉となる。

イ、今の和牛の去勢牛が、生体重四五〇キログラム以上になるには、生後月令が一六、一七八ヵ月になる。このころに色も濃く、肉も濃くなっている。このころに肉質が改善されて、肉牛の増価額はふえる。けれども、そのふえかたは漸次にぶるから、この両者が合致した、即ち、両者の比が一致したときが肥育の打ち切りどきであるとしている。この指標が示された昭和四十一年当時は肥育経過月数が一二月月

第3図 肥育経過と出荷適期 (子牛を素牛とする場合—若令肥育)



この体重まで肥育すれば、肉のしまりもよくなるし、脂肪の付着も適度となって、精肉用としてりっぱに通用するようになる。

と云って、第一六表を示しておられるので、ここに参考のため掲げて、肥育の進捗と牛体の化学組成とくに水分と脂肪との増減のぐあいを注目したい。

(2) 肥育の経過と出荷の適期

第三図は中央畜産会によるものであるが、これによると、若令肥育において、肥育経過月数が進むにつれて、飼料費の必要量は多くなり、これに比べて毎日体重(肉量)がふえるとともに肉質が改善されて、肉牛の増価額はふえる。けれども、そのふえかたは漸次にぶるから、この両者が合致した、即ち、両者の比が一致したときが肥育の打ち切りどきであるとしている。この指標が示された昭和四十一年当時は肥育経過月数が一二月月

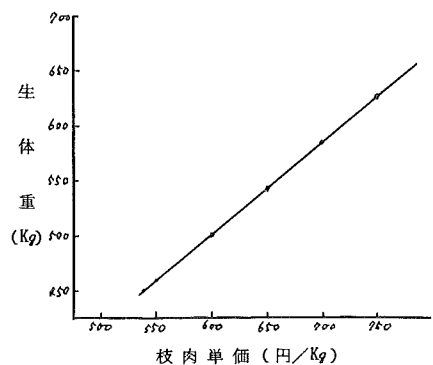
で、生体重が四六〇キログラムいどのときが出荷の適期となっている。飼料費と増価額(増体量×肉質改善)の標準的關係のもとで、長くかけて肥育できるような価格関係が長く続くほうが望ましいわけである。

ところが、最近枝肉単価が当時にくらべれば、ひじょうに高くなっているし、また、肉資源を多くする意味から、一頭の牛からなるべく多くの肉をとるためになるべく長く肥育する方向にある、ということが言える。そこで、今かりに単純にこのようなことを考えてみる。

$$\begin{aligned} & \text{1日当りの肉増価額} \\ &= \text{1日当りの増体量} \times \text{肉の割合} \\ &= \text{1日当りの増体量} \times \text{枝肉歩留り} \times \text{枝肉単価} \\ &= \text{1日当りの増体量} \times \text{枝肉歩留り} \times \text{枝肉歩留り} \times \text{枝肉単価} \\ &= \text{1日当りの増体量} \times \text{枝肉歩留り}^2 \times \text{枝肉単価} \\ &= \text{生体重} \times 0.018 \text{ (体重に対し1.8\%の増)} \\ & \quad \times \text{枝肉歩留り} \times \text{枝肉単価} \end{aligned}$$

この関係の中で、試算を簡単にするため、一日当り増体量をいつの場合も一〇キログラムとし、枝肉歩留りを六〇%とすれば、肉牛の増価額は枝肉単価のちがいでよってだけ左右されるという仮定ができる。一方、飼料の単価をかりにキログラム当り四〇円とすれば、飼料費のほうは生体重のいかんによってのみ左右

第4図 若令肥育における仕上げ体重と枝肉単価との関係



されるということになる。そこで、枝肉単価が六五〇円としたときの一日当りの肉増価額は

$$\begin{aligned} & \text{1日当りの肉増価額} \\ &= \text{10kg} \times 0.6 \times 650 \text{円} \\ &= 3900 \text{円} \end{aligned}$$

となり、一方、飼料費がこれに見合うように、生体重がいくらになるかを計算すれば、

$$\begin{aligned} & \text{肉増価額} = \text{生体重} \times 0.018 \times \text{枝肉歩留り}^2 \times \text{枝肉単価} \\ & 3900 \text{円} = \text{生体重} \times 0.018 \times 0.6^2 \times 650 \text{円} \\ & \text{生体重} = 3900 \text{円} \div 0.72 = 5400 \text{円} \end{aligned}$$

即ち、枝肉単価が六五〇円るときは、生体重五四〇キログラムまで肥育を続けてよいということになる。このようにして見ると、第四図の関係が生まれるからこれを見ると、例えば、枝肉単価が七〇〇円すれば、生体重五七〇キログラムぐ

らいまで、七五〇円すれば六二〇キログラムぐらゐまで肥育を続けて行くことが適当ということになる。もし、濃厚飼料の給与割合が体重に対して一・六%であれば、生体重はこれより幾分多くなっ

(3)

若令肥育において、肥育のわりほど飼料要求率は大きくなることを、岡山県和牛試験場の「和牛産肉能力間接検定成績」の中から引き出して表示すれば、第一七表のようである。即ち、肥育の末期になるほど飼料効率がわるくなるので、いっそう肥育を適期に切り上げることの重要さを考えさせられる。

以上のような観点から、しばしば行なわれる枝肉共助会に出品された肉牛の生体重を見ると、六〇〇キログラムを超えるものが多く、中には七〇〇キログラムを上廻るものもある。それでいて枝肉単価が格別高いとも言えないようであるから、共助会といえども、肉牛の適期出荷が課題とならなければならぬと思われ

枝肉単価をきめる大きな要因のロース芯の脂肪の交雑は、肥育方法によるよりも、その肉牛の先天的な遺伝的なもの由来するので、長く肥育するに値しない肉牛を長く飼うことの不合理、不経済をあえてここに提言して、今月の責を果す。

和牛を科学的に飼うために
『新しい肉用牛の飼い方』
一冊 一五〇円



春の草を たくさん 貯蔵しよう

岡山県常勤畜産コンサルタント

上原茂喜



○ 乳牛の使命

最近の酪農は著しく多頭化の傾向がすすんでいる。酪農経営のなかにおいて、なにか基本になるかといえれば乳牛であるが、乳牛頭数を多くすれば儲けが大きくなるかといえればそうはいかない。ただ単に多頭化したのでは、これら多頭にした乳牛に十分能力を発揮させるための、必須条件がこわされるのである。つまり、土地規模、飼養管理技術、自給飼料、労力等を十分計算したうえで、その経営に適した乳牛頭数を決定しなければならぬ。

多頭化し、しかもそれだけの効果をおぼるために、最も重要なことといえれば、まず乳牛個体を改良しそれを揃ったものにする。反すう獣である乳牛の生理にかなった飼いや方をすることになる。最近は一〇〇円乳価も実現された。それだけに悪くいえば、以前に比べて

○ 年間を通じてやりたいもの

乳牛に最も必要なものといえればせんいである。それも十分利用できるせんいで

て濃厚飼料が買ひ易くなったともいえるのである。事実、基礎飼料生産をおろそかにして、稲わらと濃厚飼料中心に流れている酪農家、いや酪農家とはいえない、牛乳搾取者も多く現われている。しかし、これは牛を飼育しに方法であって、酪農本来の姿は、乳牛の栄養、健康や繁殖を考えて、乳牛に自分の使命をまっとうさせてやれるような飼いや方をしなければ、あらわれてこないだろう。

現在一般の酪農家では、多頭化するにともない、一頭当たり基礎飼料の給与量はますます少なくなっている。そのうえに季節による変動が大きい。春の青草期にはありある程度程草を与え、冬期間は稲わらばかりという酪農家がまだ多い。濃厚飼料をみると草の多い時も、稲わらの時も、同じ飼料を、同じ量を与えている。そして春には下痢やケトージス、繁殖障害の発生という道をたどっているのである。

この青草と稲わらを、年間ならして利用することはできないであろうか。基礎飼料の必要量はふつう体重の一〇％(生草)といわれているが、体重五〇〇kgの乳牛であれば五〇kgになる。これだけの量を年間を通して与えることは理想ではあっても、なかなかむずかしい場合が多い。健康をある程度維持してゆくには、ある試験結果では最低三〇kg(生草)は必要となっている。これだけの量を、年間を通して与えることが望ましいのである。

○ 春の草を 貯蔵しよう

ふつう、牧草でも飼料作物でも、春期に年間生産量の六〇〜七〇％が生産され、初秋頃に残りの四〇〜三〇％が生産され

るものである。

年間の殆んどが生産されるときに、あまり余る投与えて、残食量を出したり、その上に濃厚飼料を与えて下痢をさせるというのでは、まったくもったいないばかりか飼料効率を落し、不経済なことになっているのである。この余った草を貯蔵して、冬期間や農繁期に与えるようにすればよい。しかし、これだけの基礎飼料ではとても足りない。冬期間だけ稲わらを多給することを止めて、これを年間を通して給与するようにする。つまり、春の青草期も、与える青草の量を減らして稲わらと給与し、乾物量のバランスをとり、冬期も青草期と同様に、貯蔵飼料と稲わらと同じように与えるのである。

それではどうして貯蔵するか。乾草ができれば、育成や分娩に際してもっとも

つこうがよいが、あいにく春は天候が不順である。そこで、サイレージの通年給与という方法が考えられた。

すでに、国の農業試験場畑作物部では七年間もサイレージ通年給与の試験が行なわれ、何んら支障もなく、上々の成績を納めているので、これを普及段階におろすべく準備をすすめている。

もっとも、今までの慣行法で作るサイレージのように、水分八〇％以上で醗酸の多く含まれているような低品質のものではだめである。低水分(六〇〜七五％)で品質のよいものだと、ふつうは一日の給与量は二五kgまでといわれていたものが、三〇〜四〇kg毎日給与を続けても、悪い成分が含まれていないので、何んら悪影響の出ないことが証明されている。

○ イタリアンを

このように貯蔵 しよう

岡山県の酪農をみた場合、イタリアンライグラスは最も重要な飼料作物である。特に県南の水田酪農地帯では、自給飼料の八〇％以上を占めているものと思われる。ただし、良質サイレージを作ろうとする場合には、イタリアンは最適の材料とはいえない。つまり、サイレージ用材料としては炭水化物が多いこと、含水量が七〇％程度がちょうどよいのであるが、イタリアンは水分が多く、たん白も

- 昭和四十一年頃よりサイレージの通年給与を始めたある県南の酪農家は、これの利点をして次のことをあげている。
- ① 年間平均して、自給基礎飼料が給与できる。よって定期的に変動していた乳量が平均化してきた。
- ② 時期による飼料価値の変動が少ないので、飼料給与技術が簡単になった。
- ③ 青刈給与方式に比べて、刈取運搬の時間が少なくなった。

○ サイレージ通年給与の利点

- ④ 刈り取りに動力刈取機の利用ができ、作業能率がよくなった。
- ⑤ 圃場が一度に刈り取られるので、跡作の利用効率がよい。
- ⑥ 収量、養分量の多いときに収穫できる。
- ⑦ 牛の健康状態がよくなり、特にケトージスが減少した。最高泌乳期をすぎると、増飼いしなくても牛の体力が回復してくる。

多い、反対に炭水化物が少い。特に若い時期のものは固形物、反すう獣にたいせつなせんいが少い。そこで、栽培法、利用時期を工夫することによってこれを是正すればある程度カバーできる。サイレージ用のものは、素施用量をやや少なくし、刈り取りを開花期にして、炭水化

良質のサイレージをつくる……

ピオサイロゲン

- ① 抗生物質で有害細菌を抑え、悪い発酵を防ぎます。
- ② 耐性乳酸菌はサイレージ発酵に最適の乳酸菌です。
- ③ 糖蜜飼料その他の添加剤は不要ですから、大へん経済的です。

(本社) 日本全薬工業株式会社
郡山市昭和1丁目15-23
(岡山支店) 津山市坪井町34 TEL 津山9251代



子牛1頭当たり生産費 (単位:円)

区 分	4 2 年	4 1 年	増 減
飼養労働費	45,344	36,952	8,392
直接諸材料費	2,023	2,105	△ 82
飼料費			
購入	12,082	12,012	70
自給	6,485	8,471	△ 1,985
計	76,938	96,723	△ 19,785
建物費	19,310	10,747	8,563
農具費	3,664	3,863	△ 199
賃料々金	3,428	2,369	1,059
母牛償却費	10,387	11,906	1,519
費用合計			
購入	16,434	14,966	1,468
自給	11,156	12,356	△ 1,200
償却	3,310	26,135	6,965
計	161,094	164,665	3,571
副産物			
きゅう肥	3,352	4,702	1,349
役利用	18,908	15,052	3,856
計	52,437	62,072	△ 9,635
第1次生産費	108,657	102,593	6,064
地代	2,600	1,927	673
資本利子	13,506	13,785	△ 279
第2次生産費	124,763	118,305	6,458
販売経費	4,016	3,125	891

農林統計速報より

和牛子牛生産いまだ赤字

肉牛不足による子牛価格の値上がりによって、昭和四十二年の子牛生産は、いままでの赤字経営から脱出して採算が期待されたが、子牛生産費調査によると、純収益は三万八千九百円、一六千円の赤字を一万三、二九七円うめたにとどまった。ただし、農家所得でみれば三万六三一円の所得となる。

販売価格は九万三、九四四円と昨年より一万九、七五五円値上がりしたのであるが、飼養労働費の値上がり、四、五頭繋養できる施設をもちながら、これを遊ばしている農家が多く建物費がかかっているためこのような結果となったのである。これは、母牛価格が高いため、いったん牛を手離して生活費にあてた場合には、これを買戻して増頭すること、また労働力不足等から、増頭不可能なことを物語っていると思われる。

さて、費用細目は表のとおりであるが、

昭和四十二年の生乳生産量は前年並み

昭和四十二年一年間(一月〜十二月)の生乳生産量は七万九、一五〇トンで、昨年の七万九、四八五トンより若干減少しており、五年前の昭和三十八年と比べると九分の伸びとなっている。この生産量は、全国(北海道を除く)では一三位、中四国以西では一位であって、その乳代は四〇億をこすものとみられ、西南暖地における酪農としての面目を保っている。

この生産量を細かくみると(カッコ内の数字は前年同月対比)

一月	六、一八三	(九五)
二月	五、九五八	(九六)
三月	七、一三五	(九六)
四月	七、五四六	(九八)
五月	八、〇七九	(一〇〇)
六月	七、一七八	(九六)
七月	六、四六五	(九三)
八月	六、二四六	(一一一)
九月	六、〇一九	(一〇四)
十月	六、一五九	(一〇六)
十一月	五、八四六	(一〇七)
十二月	六、三三六	(一〇九)

であって、八月頃よりようやく増産をみせてきたが、前半の低増がたたって後半になるほど増加率が高くなっていることから、昭和四十三年のみとおしに明るいものが感ぜられる。

この生産量のうち、七〇% (七六) にあたる五万五、三九五トン(六万一五)が県内で処理されており、飲用牛乳等向けに三万九、四五七トン(三万七、八一九)、乳製品等向けに一万一、四三六トン(一万七、六三〇)、その他に四、五〇二トン(四、七〇二)が向けられており、年々乳製品等向け、その他向けが減少して、その反対に飲用牛乳の需要が増大してきていることがはっきりとわかる。(カッコ内は前年の数字)

いっぽう、飲用牛乳の生産量は、牛乳

物含量を高めるようにする。しかし、これでは刈取回数が少なくなると単位収量からみて不利であるので、刈り取り後予乾したり、稲わらを吸水剤として入れたり、糖分の添加が必要となってくる。(イタリアンライグラスサイレージの作り方の詳しい解説、予乾法、水分調節法、添加剤、サイロなどの点については、『イタリアンライグラスの栽培利用技術』岡山県畜産会発行、一部価格一三〇円を参考にすること)

前記酪農家が行っているサイレージ材料の配合例をあげると、

◎ 一例(四月詰め)

イタリアン(予乾) 四、〇〇〇Kg
稲 四、〇〇〇Kg
乾燥でん粉 二〇〇Kg
米ぬか 五〇Kg
醸酵促進剤 〇・九Kg

◎ 二例(十二月詰め)

イタリアン(生) 四、〇〇〇Kg
稲 八〇〇Kg
乾燥でん粉 二〇〇Kg
米ぬか 五〇Kg
醸酵促進剤 〇・九Kg

◎ 三例(七月下旬詰め)

ソルゴー 四、〇〇〇Kg
稲 二〇〇Kg
乾燥でん粉 八〇Kg

米ぬか 五〇Kg
醸酵促進剤 〇・九Kg

◎ 四例(四月詰め)

イタリアン(予乾) 二、〇〇〇Kg
稲 二〇〇Kg
乾燥でん粉 五〇Kg
米ぬか 一〇Kg
ふすま 五〇Kg
醸酵促進剤 〇・四五Kg

のようになっており、栄養比はだいたい八〇で、理想的な基礎飼料といえる。また、サイレージの通年給与を行なうためには、良質サイレージを作るといことは不可欠のことであるが、そのためのいろいろ自分で工夫しているが、その結果をまとめると次のようになる。

① 水分を七〇%程度に調整する。天候と労力との関係から、予乾しない時は稲わらを材料といっしょに切り込んで水分調整する。材料の予乾程度、収穫時期により稲わらの混合割合を材料の五〜二〇%とする。(理想は一〇%を限度としたい)

② 材料はサイレージ用と青刈用とに区別して栽培し、サイレージ用はちっ素過多にならず倒伏を防ぐ。

③ 切断は質の硬いものは短く(切るより短く)、軟かものは長く切るが、だいたい一・五〜四・〇cmくらいに切断する。

④ 空気のはしゃ断には特に注意し、よく

踏み込んで空気を排除して、ビニール布で空気を完全にしゃ断する。

⑤ 重しは、空気のはしゃ断の目的を主として、ビニールの上に、周囲二〇cm、中央部一〇cm程度の厚さに砂を使う。

⑥ 乳酸醸酵を良くし、またサイレージの栄養比調節のため乾燥でん粉、米ぬかなどを材料の五〇%程度いれる。

⑦ 夏期給与用のサイレージは水分含量を七〇%程度とする。また、夏期は再醸酵やカビが生え易いので、取り出しは二日分ずつくらい出し、その跡はビニールで完全に覆い、あと周囲を塩水を振りまいて消毒しておけばカビの発生を防げる。

⑧ 附記一以上は酪農家の研究によるものであるが、上記事項に加えてミルクポンプにより(ビニールカバーとシートによる方法)空気を排除(減圧法)する方法も実施せられている。

以上のように、勉強してそれを実行に移す酪農家はすでに新しい試みを自分で工夫して、自分のものにしていくのである。水田地帯の酪農で、乳牛の泌乳能力を規定するのはTDN量である。しっかりとこの春の草を貯蔵して、年間を通してよいせいを与えて、要するに酪農にす

“酪農・養鶏機ならおまかせ下さい”

農業機械ならなんでも揃う店

岡山市柳町一丁目一の一七

小六農機株式会社

TEL 岡山②0307代 岡山市外専用110
営業所 高梁・金川・児島

が二万七、〇二八キロリットル、加工乳が一万二、〇三二キロリットルで、加工乳は前年に比べ三五%も増加している。また、岡山県内で消費された飲用牛乳の量は三万六、八〇四キロリットルと前年の一五%増であり、これを、岡山県の人人口約八十九万六、〇〇〇人の一人当たりの消費量にしてみると、約四一リットルと

秋雛孵化羽数は最高を記録

昭和四十二年に岡山県で人工孵化された雛羽数は総数一、七六六万羽で、前年対比一〇六・一%となった。このうち採卵鶏用(鑑別雌)は六〇八万九、〇〇〇羽、前半の春雛(一、六月孵化)は九七〇万三、〇〇〇羽で前年比九七%と減少しており、特に採卵用(鑑別雌)は八七%と大きく後退しており、反対にブロイラー用は一三四%と大巾な伸びをみせたが、この後退傾向は特に三、五月に大きく、総羽数で、三月は前年比九二%、四月九〇%、五月九四%、となっており、四、五月の卵価低迷と、昨年三月初めに鶏のニューカッスル病が発生したことが大きな原因とみられる。

後半の秋雛(七、十二月)は、七九五万七、〇〇〇羽で、前年比一一九・九%と史上最高の孵化羽数を示し、特に十一月は前年比一三一・二%、十二月一三二・二%、九月一三〇・八%とすばらしいきおいである。これは、わりあい卵価、

食鳥価格が高水準で推移したこと、春雛の孵化が少なかったこととの反動とみられる。

品種別発生羽数をみると、外国鶏が年々増加しており、前年の四二%から五一・七%に増加した。反面、一代雛は一三・二%、純粋種五・二%と大巾に減少しており、国産鶏はカゲがうすくなつてしまっている。ブロイラーは二九・六%と順調である。

出荷羽数をみると、総羽数一、七五〇万五、〇〇〇羽(種鶏を除く)の六六%にあたる一、一六四万六、〇〇〇羽が出荷されており、このうち七三一万三、〇〇〇羽(六二・八%)が県外に出荷、四三三万三、〇〇〇羽(三七・二%)が県内出荷されている。これを区分けしてみると、鑑別雌では二五七万二、〇〇〇羽(四三%)が県内出荷、三三六万一、〇〇〇羽(五七%)が県外出荷されており、養鶏県、岡山県の面目を発揮している。出荷先も、全国各県に及んでいるが、特に兵庫の六五万羽、大阪二八万羽、福岡二六万羽、茨城二二万羽等がめだつ。ブロイラー(無鑑別および鑑別雄の一部分のもの)では、一七六万一、〇〇〇羽(三一%)が県内出荷、三九五万二、〇〇〇羽(六九%)が県外出荷されており、鑑別雌を上まわる県外出荷率となつておる状態、兵庫、愛媛、茨城、長崎、千葉等が主な出荷先である。(四三・二・二七発表)

映画で勉強しよう

- 貸出料一本一、〇〇〇円
 - フィルム名
 - 酪農 酪農経営の改善、乳牛のエサと栄養障害、牛の栄養と消化
 - 養鶏 成功する養鶏経営、養鶏経営の改善
 - 草 上手な牧草の作り方と利用、水田に草を作る人々
- 申込先 岡山市桑田町一丁目二番地
 社団法人岡山県畜産会
 電話 (岡山) 二二一八五七五

新しい肉用牛の飼い方

科学的に基礎知識を解説

作成責任者 岡山県常勤畜産コンサルタント 上原 茂 喜

新しい印刷方法で読み易い！
 印刷実費でおゆずりします！

1部 150円(送料共)
 申込先 岡山市桑田町1の2 岡山県畜産会
 TEL (岡山) 22-8575

『このテキストは第一線の指導者を対象とし、農家で最も必要とされている事項に主体を置き、飼養管理を中心とした基礎的な事項をあげたものである。従来の指導はとくに基礎的な知識については、農家が理解し難いという意味で簡単に結果だけ話すというところで終っていた。例えば家畜を飼うにしても基礎飼料何処に濃厚飼料何処を一日に三等分して与えればよいといった指導で、実際に牛が飼えるかということである。家畜は常に環境によって変化している。その時はそれだけのことでよかったかも知れないが、次に何日後にまた変化がくるが、その時農家はどうすればよいか解らない。しかも次の年にはまた同じことを繰り返しても農家は自分で牛を飼うことはできない。つまり基礎的な知識があれば応用動作

が可能になり、その応用動作によって飼う確信と飼う技術が農家自身についてくるのであるが、枝葉末節のことだけでは飼いの弾力性はなく、妙味のある飼いを把握することは困難である。しかしながら基礎的な知識を普及することは困難で長時間かかるが、畜産をよりよく発展せしめるためには、ある程度の科学的な基本を浸透することが大切であると考えられる。

そこでまず牛を飼う者が知らなければならぬ牛という動物の生理についての解説から始め、特に大切な子牛の育成方法、繁殖雌牛の飼い方、更に最近重要視されてきた牧野と放牧について、細かい点までも、極めてわかり易く解説を試みている。今までの参考書でよく解らなかつた人もきつと理解でき、初めて科学的な飼い方をマスターすることができるものと確信する。』

編集室から

岡山県の専業農家は三万一、〇〇〇戸足らずだそうである。ところが、農家戸数は一五万八、八〇〇戸、専業農家は一九・五%である。しかし、これら専業農家は、やり方では将来性は多分にあると意欲は十分であるが、兼業農家、それも都市部に近い農家ほど、その大半が農業に希望をもっておらず、後継者もいなくて人手不足になっている。これら希望を持たない大きな理由は、農業は労働がきつい、収入が少ない、ということであろう。ところが、反面、農業さえしておればなんとか食っていけるという考えをもっているし、都会より農村はのんびりして健康によい、生活が簡素で暮らし易いと生活の場は農村がよいという。農村は物質面と精神面とがからんでいる。後継者にはもつとドライにわり切つてもいいと思うが。

岡山畜産便り (五月号)
 第十九巻 第五号 (通巻第百九十号)
 昭和四十三年五月一日 発行
 発行人 惣 津 律 士
 編集人 蔵 知 毅
 発行所 岡山市桑田町一丁目二番地 岡山県畜産会
 電話 岡山 〇八五七五番
 振替 岡山 八五七五番
 岡山市内山下七七
 ふじや高速印刷
 電話代表 〇四九五一番
 一部五十円(送料共)
 印刷所
 定価

本誌の予約申込要領

誌代 一部 五十円(送料共)
 年間予約約六百元(送料共)
 但し一部購入の場合は増頁号の誌代をその都度の価格とし、年間予約者は増頁特集号の分も一部五十円のサービス価格とす。

集団申込の特典

十部以上を一括で年間予約する方は一部誌代を四十五円にします。百部以上を一括で年間予約する方は一部誌代を四十円に引きします。但しこの場合は一括購読ですから個人別発送は致しません。

申込方法

同封の振替用紙に代金を添え住所氏名明記の上申込して下さい。集団申込は代表者の名で何人分かを明記、誌代合計金額を払込んで下さい。但し申込みは前金を建前としております。

申込先

岡山市桑田町一丁目二番地
 社団法人岡山県畜産会指導課
 (電話) 岡山 〇 8575番
 (口座番号) 岡山 八五七五番